【参考】

■展示車両の概要

Ｂ６形蒸気機関車	
車両解説	B6 形蒸気機関車は 1890(明治 23)年から 1906(明治 39)年までイギリス、日本、ドイツ、アメリカで 533 両製造され、ドイツ製の B6 は 74 両製造されましたが、保存されているのは、名古屋市科学館の 1 両のみです。名古屋市科学館で展示する車両は、陸軍に納入された後、中央線、武豊線、高山線などで走行し、1953(昭和 28)年から 1968(昭和 43)年までは、四日市の石原産業で走行しました。同年に名古屋市科学館へ譲渡され、屋外で展示していましたが、2016(平成 28)年に調査のために館外に運び出しました。その後、圧縮空気を使用した動態保存に復元し、2026(令和 8)年から名古屋市科学館で展示します。
諸元	全長：10,399㎜　全幅：2,438㎜　高さ：3,660㎜　重量：35.26t

オハ３５　２００１号	
車両解説	大正時代まで日本の客車の多くは、木製でした。昭和に入り鋼鉄(硬い鉄)製の客車が造られるようになりましたが、オハ 35 はその初期の客車です。1939(昭和 14)年に名古屋市熱田区に工場があった日本車輛株式会社で製造され、1972(昭和 47)年に廃車になり、JR 東日本の大宮総合車両センターに保管されていました。2023(令和 5)年に JR 東日本から譲渡され、2026(令和 8)年から名古屋市科学館で展示します。
諸元	全長：20,000㎜　全幅：2,860㎜　高さ：3,865㎜　重量：33.60t

供奉車３４４号	
車両解説	天皇陛下のお供をする方々がお乗りになる車両を供奉車と言います。この車両は、1932(昭和 7)年に製造され皇太子（平成天皇)がお乗りになる列車によく使用されました。1986(昭和 61)年に廃車になり、JR 東日本の大宮総合車両センターに保管されていました。2024(令和 6)年に JR 東日本から譲渡され、2026(令和 8)年から名古屋市科学館で展示します。 全国で供奉車を展示するのは名古屋市科学館だけです。
諸元	全長：20,000㎜　全幅：2,900㎜　高さ：3,865㎜　重量：39.20t

名古屋市電　１４０１号	
車両解説	現在、名古屋市内の公共交通は、地下鉄とバスがほとんどですが、それらが運行される前は、路面電車が主な交通でした。しかし、道路を走る自動車が多くなり路面電車が走行しにくくなり、また公共交通を地下鉄に切り替えるため 1974(昭和 49)年に全ての路線が廃止になりました。1401 号は、1936(昭和 11)年に製造された 1400 形の 1 号車です。 1974(昭和 49)年から名古屋市科学館の屋外で展示していましたが、鉄道ひろばの整備に伴い、再塗装を行うなどの修復を行い、2026(令和 8)年から名古屋市科学館で再度展示します。
諸元	全長：12,325㎜　全幅：2,334㎜　高さ：3,850㎜　重量：14.00t